

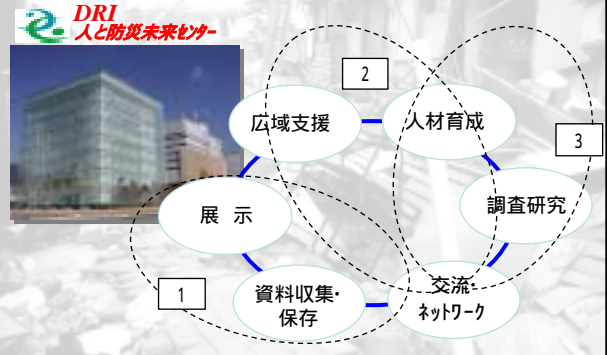
2004年12月14日

東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター
地域防災ゼミ

市民活動と地域防災力の向上

人と防災未来センター (DRI)
専任研究員 菅 磨志保

人と防災未来センターの機能



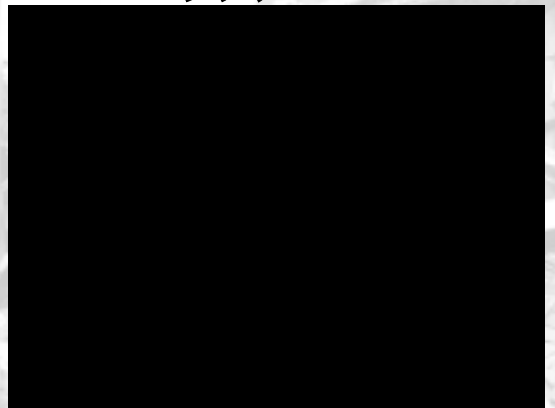
人と防災未来センターの機能

1. 大震災に係る資料等の収集・保存・展示
といのちの尊さの発信

2. 震災対策にかかる広域支援及び
実戦的な人材の育成

3. 震災対策に関する実戦面を重視した
総合的な調査研究

DRI 1.17シアター



本日の話の骨子

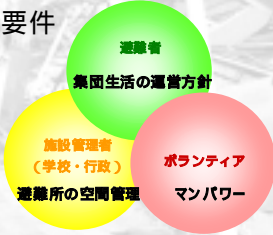
1. 阪神・淡路大震災の経験と震災以降の変化
2. 災害対応力（主体）と災害サイクル
3. 災害救援の新たな仕組み
応急対応：災害ボランティア活動
4. 地域防災力の向上を目指して
予防・減災：平常時の地域活動の中で

1. 阪神・淡路大震災の経験から

- (1) 行政対応の限界
… 行政依存적だった防災体制
- (2) “市民力”の発見
… 「コミュニティ」と「ボランティア」
コミュニティによる対応
ボランティアによる対応

避難所の運営

- 避難所のタイプと運営形態
大規模 / 学校(指定避難所)型、中・小規模 / 施設型、屋外型
- 良好な運営の要件



(3) 震災以降の変化

…“市民力”を活かした地域防災の推進

行政の防災体制の変化

“防災協働社会”: 自助・共助・公助(平成14年度 防災白書)

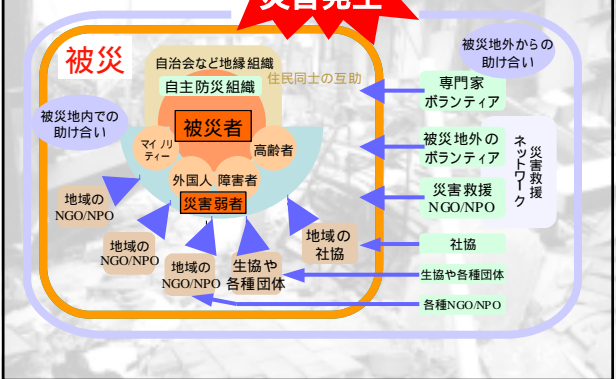
- コミュニティ
- 自主防災組織の結成を推進
- ボランティア
- 行政の防災体制への位置け
一般ボランティアと専門ボランティア
- 災害ボランティア独自の主体形成
災害救援に関わる市民組織による
全国ネットワークの形成

2. 災害対応力と災害サイクル

(1) 自助・共助・公助

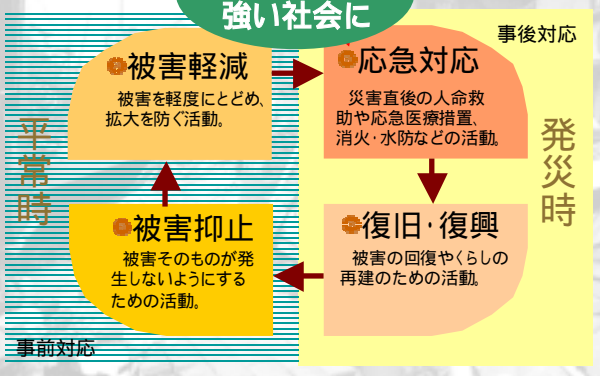


「共助」: 地域内での相互扶助 + 地域外部からの支援

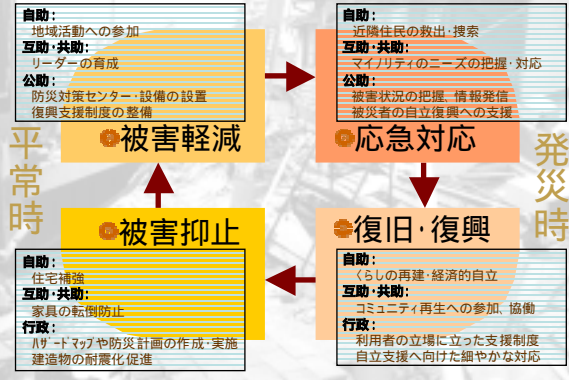


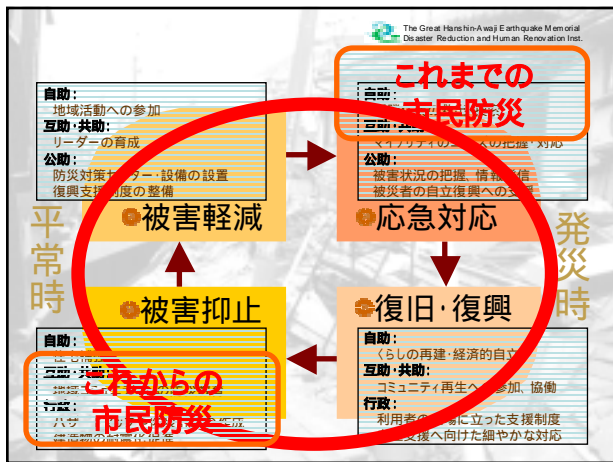
(2) 災害サイクル

より災害に強い社会に



具体的な活動内容





The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster Reduction and Human Renovation Inst.

	自助	共助	公助
応急対応	自宅待機または避難 近隣住民の救出・捜索	トリアージ 避難誘導・物資配布 マイノリティのニーズの把握・対応	被害状況の把握、情報発信 被災者の自立復興への支援
復旧・復興	被災家屋の修復 復興計画への参画 暮らしの再建と経済的自立	復興計画への参画 コミュニティ再生への参加・協働	利用者の立場に立った支援制度 自立支援へ向けた細やかな対応
被害抑止	住宅補強 緊急時の行動の確認	地域コミュニティへの防災教育・図上演習 自主防災組織の編成・強化支援	ハザードマップや防災計画の作成 建造物の耐震化促進
被害軽減	地域活動への参加	地域コミュニティの構築・維持 リーダーの育成	防災対策センター・設備の設置 復興支援制度の整備

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster Reduction and Human Renovation Inst.

3. 災害救援の新たな仕組み

応急対応：災害ボランティア活動

(1) 災害ボランティアセンター

ボランティアコーディネーション

- ・ボランティアとニーズのマッチング

活動を支える基盤

- ・場所、お金、資機材
- ・情報(IT)とネットワーク

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster Reduction and Human Renovation Inst.

(2) 宮城県北部地震の事例

災害ボランティアセンター開所前夜のミーティング

現地の社協スタッフと共に震災のノウハウを伝えながら事務局体制を作っていく

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster Reduction and Human Renovation Inst.

南郷町災害救援ボランティアセンターの本部

本部入口付近：ニーズの受付

役割分担表

3つの班に分け、それぞれに地元社協職員を配置し、引継ぎに配慮

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster Reduction and Human Renovation Inst.

ボランティアコーディネーションの実際

受付窓口：社協前にテント設営

オリエンテーションを受けた後、ニーズが割振りられる。

依頼先別に説明を受け、資機材を受け取って**現地へ**

ボランティアのころえ

- ・ 依頼者の気持ちを尊重する。
- ・ 「させていただく」の精神で。
- ・ 自己責任の原則（危険な作業は出来ないと伝える。また、体調管理もすること）
- ・ 交通費・食費・報酬等の支給はない。
（当然、請求もしない）
- ・ 交通手段・宿泊場所は各自で用意する。



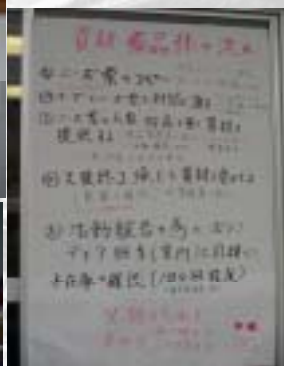
ボランティア休憩&待機場所



ボランティアに地元の方々が多いのは友の会の功績



気ばり・目くばり・心くばり



ボランティア活動への支援

企業(モトローラ)から無線の無償提供。



ボランティア

高校生10人と引率の先生が民家で壊れた石塀を砕いたり、落ちた瓦を米の袋に詰め、搬出しやすいようにする作業に従事。ボランティアの安全管理に対する配慮が必要。



南郷町災害救援ボランティアセンターの閉鎖(ステップアップ)

- 8月7日(木)
防災無線によりニーズ受付は8月10日正午まで。センター活動期間は12日までと広報。
- 8月8日(金)
防災無線と同じ旨のチラシを朝刊に折込(以後の体制や活動方針等も含めた内容)
民生委員より要援護世帯の片付け状況調査を受け、早急に対応。
- 8月10日(日)・・・正午でニーズ受付終了
- 8月11日(月)・・・作業活動を終了
- 8月12日(火)
「ステップアップセレモニー」を開き、既存の社協VCに規模を縮小し、今後は生活支援サービスへ事業内容・運営機能を移行する。

被災5町における活動実績

町名	活動期間	V受付者数	V活動実施者数	ニーズ実施数	実施内容
南郷町	7月26日～8月12日	1970人	2261人	303件	屋内外片付け・避難所内レタ・清掃活動・マッパ・避難所仮設風呂介助・本部PC入力・他
鹿嶋台町	7月26日～8月10日	317人	340人	32件	屋内外片付け・本部支援・ニーズ調査・話し相手・他
鳴瀬町	7月26日～8月16日	280人	489人	198件	屋内外片付け・避難所見守り・マッパ・本部支援・他
矢本町	7月26日～8月10日	724人	266人	227件	屋内外片付け・避難所見守り・話し相手・電気修理等・物資関連・他
河南町	7月26日～8月8日	774人	445人	174件	屋内外片付け・見守り・保育・道路清掃・マッパ・電気修理等・物資関連・他
合計		4065人	3801人	934件	

(出所)宮城県社会福祉協議会・2013・pp.2,3,5,35より筆者作成

4. 地域防災力の向上を目指して 予防・減災：平常時の地域活動の中で

- (1) 地域防災力の基盤となるもの
・・・地域に対する愛着

神戸市長田区御蔵地区
防災まちづくり大賞受賞したが？

東京都台東区竹町中町会
安全・安心な暮らしのための様々な活動



昭和19年に発足した中町会の「防災指導員」の皆さん
前列中央が黒木さん(当時リーダー)

竹町中町会
東京大空襲からいかに地域を守ったか
～黒木庄八さんのお話し～

黒木さんの話を熱心に聞き入る
竹友会館の2階にて



「こんな話、50年ぶりだよ」
熱心に語る黒木さん(今年90歳)

(2) 地域防災活動の視点と方法

視点：地域の安心・安全を守る
自然災害(地震, 水害, 噴火)?

方法：新しい取り組み
災害のための特別な活動?

参考文献等

- 東京ボランティア・市民活動センター編(2002)『市民主体の危機管理』筒井書房。
- 山下祐介・菅磨志保(2002)『震災ボランティアの社会学』ミネルヴァ書房。
- 阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション編・発行(2004)『共働 - 共同建替事業の記録「みくら5」の完成まで』。
- 浦野正樹(1996)『自主防災リーダーマニュアル』東京法規出版。
- 日本防火協会編(2003)『婦人防火クラブリーダーマニュアル』東京法規出版。
- 早稲田大学『災害の社会学的研究への招待』URL
- <http://www.littera.waseda.ac.jp/saigai/1-1/1-1-1-1.htm>